

交通のご案内



アクセス方法					
阪急電車利用の場合	大阪方面から	阪急電車神戸線	西宮北口駅	阪急電車今津線(宝塚行き)	甲東園駅
		12分		4分	バス 約5分
	神戸方面から	阪急電車神戸線	西宮北口駅	阪急電車今津線(宝塚行き)	仁川駅
		14分		6分	徒歩 12分
JR利用の場合	大阪方面から	JR 大阪駅	JR 西宮駅	バス(「上ヶ原二番町」下車)	西宮聖和キャンパス
		12分		約15分	徒歩 10分
	神戸方面から	JR 三ノ宮駅	JR 西宮駅	バス	
		14分		約15分	

■ 関西学院大学
(西宮上ヶ原キャンパス)
〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号

お申込の手順

1. 参加ご希望の方は、下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAX または郵送にてお申し込みください。
 2. 参加費を右記郵便口座にお振り込みください。
 3. 参加費の振込を確認し次第、参加票をお送りいたします。
セミナー当日は、参加票をご持参ください。
- ※入金後のキャンセルにつきましては参加費のご返金はできかねますので予めご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ

第1回 全国集合住宅団地支え合いサミット実行委員会 事務局
全国コミュニティライフサポートセンター / 担当：田村・永坂
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階 TEL：022-727-8730

お振り込み先
○ ゆうちょ銀行振替口座
口座記号・番号：02260-9-46303
加入者名：全国コミュニティライフサポートセンター
※お近くのゆうちょ銀行、または郵便局の貯金窓口をご利用ください。

※FAX 番号のお間違えにご注意願います

FAX **022-727-8737**

【参加申込書】

全国コミュニティライフサポートセンター 宛

第1回 全国集合住宅団地支え合いサミット

申込責任者		団体名	
所在地	〒	(自宅・職場)	TEL
			FAX

お名前	役 職	参加ご希望の分科会に○をご記入ください。		
		分科会 A	分科会 B	分科会 C
①				
②				

第1回

全国集合住宅団地 支え合いサミット

— 阪神・淡路大震災から続く災害復興住宅の自治と支援も考えます —

日 時

**2013年
2月10日(日)**

会 場

関西学院大学 G号館

〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

1950年代以降、
高度成長と人口増加を背景

として全国各地に数多く建設された
集合住宅団地では、経年による設備の老朽化や高齢化の進展や人口減少にともなう空室の増加などにより、さまざまな生活課題が表出するとともに、コミュニティの維持も困難になってきているところも少なくありません。

近年顕在化してきたこのような状況に対し、当該団地の自治会・町内会、民生委員・福祉委員、行政、社会福祉協議会、ボランティア団体、NPOのほか、地域によっては、地域包括支援センターや校区コミュニティ、社会福祉施設等さまざまな団体が、コミュニティの問題として多様な活動に取り組みつつあります。

本サミットでは、そのような先駆的な事例をとおして、今後の集合住宅団地での生活を支えるために、私たちが何をなすべきかを考えることを目的として開催します。

参加費

3,500円
(資料代込み)

定 員

500人
(先着順)

主 催 第1回 全国集合住宅団地
支え合いサミット実行委員会

13:00～13:10 開 会

13:10～13:40 基調講演「集合住宅団地における課題」
日本福祉大学 社会福祉学部 教 授 児 玉 善 郎

13:40～13:50 休憩・移動

13:50～15:30

分科会 A

「建て替えをきっかけに、動いた力」

パネラー

草加松原団地(埼玉県草加市) 草加松原団地自治会

副自治会長 中 川 正 幸

千里ニュータウン(大阪府豊中市)

東丘校区福祉委員会・東丘地区民生・児童委員会地区委員長

吉 山 妙 子

サポーター

都市再生機構(UR) 本社住宅経営部

ウエルフェア担当部長

加 藤 邦 彦

コーディネーター

京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科

教 授 檜 谷 美恵子

分科会 B

「動くのは私たち～住民主体の取り組み」

パネラー

公田町団地(神奈川県横浜市)お互いさまなっと公田町団地 専務理事

有 友 フユミ

もみじ台団地(北海道札幌市)第2 もみじ台団地自治会 自治会長

佃 律 子

コスモスの家(神奈川県川崎市)

理事長 渡 辺 ひろみ

サポーター

厚生労働省社会・援護局 総務課

課長補佐 荒 川 英 雄

コーディネーター

関西学院大学 人間福祉学部

学部長 牧 里 毎 治

分科会 C

「災害復興住宅における、自治と支援」

パネラー

特別養護老人ホーム ハッピータウン KOBE

施設長 國 生 直 也

県営福井鉄筋住宅(兵庫県宝塚市)「ぐるーぶ なか」 代 表

中 八重子

市営安倉南住宅(兵庫県宝塚市) ふれあいサロン喫茶 みなみ

坪 井 圭 子

サポーター

国土交通省 住宅局 住宅生産課

課 長 伊 藤 明 子

コーディネーター

関西大学 社会学部

教 授 松 原 一 郎

15:30～15:40 休憩・移動

15:40～17:20 まとめのディスカッション
「団地におけるこれからの支え合い」

パネラー

ボランティアグループ すずの会(神奈川県川崎市) 代 表 鈴 木 恵 子

豊中市社会福祉協議会

事務局次長 勝 部 麗 子

京都府立大学 生活環境学部

教 授 檜 谷 美恵子

関西学院大学 人間福祉学部

学部長 牧 里 毎 治

関西大学 社会学部

教 授 松 原 一 郎

サポーター

国土交通省 住宅局 住宅生産課

課 長 伊 藤 明 子

厚生労働省社会・援護局 総務課

課長補佐 荒 川 英 雄

内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)

山 崎 史 郎

コーディネーター

日本福祉大学 社会福祉学部

教 授 児 玉 善 郎

17:20～17:30 閉 会

A 草加松原団地(埼玉県草加市)

東洋一のマンモス団地と言われた草加松原団地で、孤独死が続いた。それをきっかけにしてできた「見守りネットワーク」と、発足40年の「野ばら会」による「お休み処」。住民がつくったこれらの見守り活動は、高齢居住者の「ここで暮らし続けたい」という安心感につながっている。

A 千里ニュータウン(大阪府豊中市)

集合住宅のみの小学校区域において、食事サロンなど多様な小地域福祉活動を展開している福祉委員会である。建て替えなどでコミュニティの希薄化が進む中で、福祉課題を抱える世帯を40年以上居住している民生委員などが状況把握し、包括やCSWへつなげる小地域総合相談窓口が機能している。

C 県営福井鉄筋住宅(兵庫県宝塚市)

住宅の自治会長の思いを受けて、地域のボランティアがサロン活動を始め、これをきっかけに、地域のコミュニティ組織、NPO、社協等が協働して住宅内で総合相談窓口やサロン・会食会を展開し、周辺地域を含めた関係づくりを進めている。

災害復興公営住宅

阪神・淡路大震災から18年が経過し、兵庫県下の復興公営住宅では、孤立化、高齢化によるさまざまな問題が起こっている。避難所→仮設住宅→復興住宅という2度の住み替えによって住民同士のつながりが弱いことに加え、優先入居で高齢化率、単身世帯率が非常に高くなり、超高齢社会の縮図のような状況となっている。上記はこのような復興公営住宅の中で、「つながりづくり」「住みよい地域づくり」を目指した活動をしている事例である。

C 市営安倉南住宅(兵庫県宝塚市)

住宅自治会の役員が中心となってふれあい喫茶を実施。これを基礎に、社協や大学の実習生と協働してニーズ調査を行い、民生委員や専門職と協働した総合相談窓口の開設、住民同士の支え合い活動、見守り活動につなげている。

B もみじ台団地(北海道札幌市)

昭和40年代に開発された市内最大の住宅団地(戸建て、市営住宅、UR賃貸等)で、17,000人が居住し、高齢化率は34.1%に達している。地区内の4つの自治会の内の一つである第二もみじ自治会が、平成22年頃から、地域包括支援センターや社協との連携のもと、入居者の孤立化への対応として、月2回のサロンの開催、福祉マップづくり、住民同士で見守り支援を行う「黄色いエプロンの会」などの活動に取り組んでいる。

B コスモスの家(神奈川県川崎市)

コスモスの家は、川崎市多摩区で団地の一室でミニデイサービスを始めるところから出発した。現在はデイサービスなどの介護保険事業だけでなく、めだかの地域大学や三田ふれあいセンターを開催している。活動範囲は小学校区で、区内には西三田団地がある。

B 公田町団地(神奈川県横浜市)

NPO法人「お互いさまなっと公田町団地」の活動拠点「いこい」には、来てもらう、訪問する、ITなど様々な見守りのアンテナとしかけがある。各種機関との連携とともに、「困ったときはお互いさま」の精神で孤立予防・孤立死予防につながる生活支援を続けている。

まとも ボランティアグループ すずの会(神奈川県川崎市)

川崎市宮前区野川地区で活動するすずの会はボランティアグループである。野川南台団地や野川西団地を含む地域が活動の場で、歩いて数分の近所の方が気軽に個人宅に集まる「ダイヤモンドクラブ」を設けたり、見守りが必要な人を把握するマップづくりを行っている。

「集合住宅団地におけるコミュニティと相互扶助に関する調査研究事業」事例検討会

1950年代以降、高度成長と人口増加を背景として全国各地に数多く建設された集合住宅団地では、経年による設備の老朽化や高齢化の進展、人口減少にともなう空室の増加などにより、さまざまな生活課題が表出するとともに、コミュニティの維持も困難になってきているところも少なくありません。

近年顕在化してきたこのような状況に対し、当該団地の自治会・町内会、民生委員・福祉委員、行政、社会福祉協議会、ボランティア団体、NPOのほか、地域によっては、地域包括支援センターや校区コミュニティ、社会福祉施設等さまざまな団体が、コミュニティの問題として多様な活動に取り組みつつあります。

本事例検討会では、いくつかの視点から集合住宅における先駆的な事例を検討します。



日時： 2013年2月11日(月・祝) 9:50～15:30
会場： 関西学院大学 G号館
参加費： 無料(資料代1,000円)

会場のご案内

■ 関西学院大学(西宮上ヶ原キャンパス) 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号



★仁川駅 ▶徒歩12分
★甲東園駅 ▶徒歩12分／バス5分

プログラム	開 会		
09:50～10:00			
10:00～12:00	<div>★事例検討 1「NPO・ボランティアとの協働と課題」</div> <div><div>●事例発表</div><div>草加松原団地(埼玉県草加市) 草加松原団地自治会 副自治会長 中川 正幸 松原団地見守りネットワーク 理事長 布施 郡二 大山団地(東京都立川市) 大山自治会 自治会長 佐藤 良子 ボランティアグループ すずの会(神奈川県川崎市) 代 表 鈴木 恵子 コスモスの家(神奈川県川崎市) 理事長 渡辺 ひろみ</div></div> <div><div>●サポーター</div><div>奈良教育大学 教育学部 家庭科教育講座 准教授 立松 麻衣子 静岡英和学院大学 人間社会学部 コミュニティ福祉学科 講 師 岡部 真智子 敬和学園大学 人文学部 共生社会学科 講 師 川本 健太郎 全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘 日本福祉大学 社会福祉学部 教 授 児玉 善郎</div></div> <div><div>●コーディネーター</div><div>宝塚市社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿一</div></div>		
12:00～13:00	昼食・休憩		
13:00～15:30	<div>★事例検討 2「公的機関との協働と課題」</div> <div><div>●事例発表</div><div>公田町団地(神奈川県横浜市) お互いさまねっと公田町団地 専務理事 有友 フユミ 横浜市桂台地域ケアプラザ 所 長 石塚 淳 もみじ台団地(北海道札幌市) 第2もみじ台団地自治会 自治会長 佃 律子 札幌市厚別区第1地域包括支援センター 地域包括支援係長(保健師) 早坂 みどり 大阪府営南桜塚住宅(大阪府豊中市) 府営桜塚住宅活性化プロジェクト委員長 宮本 喜弘 豊中市社会福祉協議会 地域福祉課 地域支援係 係 長 佐藤 千佳</div></div> <div><div>●サポーター</div><div>関西学院大学 人間福祉学部 学部長 牧里 每治 奈良教育大学教育学部 家庭科教育講座 准教授 立松 麻衣子 静岡英和学院大学 人間社会学部 コミュニティ福祉学科 講 師 岡部 真智子 敬和学園大学 人文学部 共生社会学科 講 師 川本 健太郎 全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘 宝塚市社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿一</div></div> <div><div>●コーディネーター</div><div>日本福祉大学 社会福祉学部 教 授 児玉 善郎</div></div>		
15:30～15:35	閉会		

お申し込み・お問い合わせ

参加をご希望の方は、下記の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたは郵送にてお申し込みください。

全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)／ 田村・永坂・田所
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階 TEL:022-727-8730

FAX022-727-8737

「集合住宅団地におけるコミュニティと相互扶助に関する調査研究事業」事例検討会 参加申込書

申込者		団体名			
所在地	〒	(自 宅 ・ 職 場)	TEL		
			FAX		
お名前		役職	お名前		
1			3		
2			4		